

## コロナ禍で経験したことを生かそう

## ～5月朝礼講話(5/8)より～

1学期が始まって1か月。疲れたな～、しんどいな～と思っていた人も多かったと思います。その気持ち、連休で少しは取れましたか。リフレッシュできましたか。今日皆さんの登校の様子をみて、足取り軽く登校できた人もいれば、しんどいながらも頑張って登校した人もいるでしょう。先生は、どちらの人にも感心して見ていました。そしてほっとしました。

さて、今日はコロナ禍で感じたこと、経験したことについて話をします。コロナ禍を通して経験したことと言われて、真っ先に思い出すことはどんなことですか。私は、「当たり前だと思っていたことは、決して当たり前ではなかった。」ということです。よく人から聞いたり、自分で言ったりした言葉ではなかったでしょうか。「学校に来て、授業を受けること」「友達と会うこと、話すこと」「行事や部活動ができること」どれも当たり前だと思って疑わなかったことが、当たり前ではなかったと気づかされました。

もう一つは、「自分以上に家族や友達、他人を気遣うこと。」ということです。家族に赤ちゃんや高齢の方、受験生の兄妹などがいる家庭は、人一倍気遣って生活したでしょう。また、普段接する友達との会話でも、気遣ってきましたね。「他を気遣う、他を思いやる」これもコロナ禍で経験したことです。

この「当たり前の日常に対する感謝」と「他を気遣い、思いやる心」は、コロナが収まっても、ずっと大切にしたい気持ちだと思いますが、皆さんはどう思いますか。

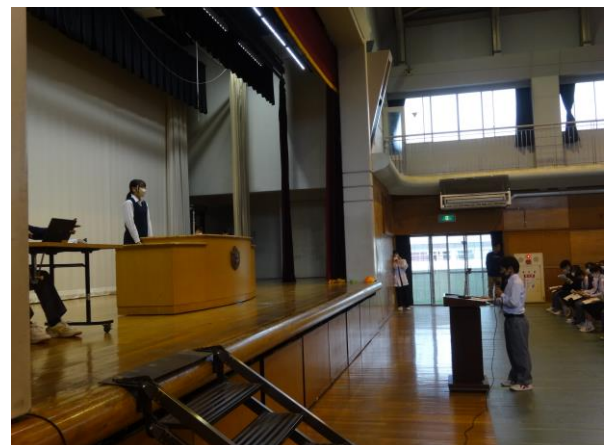
今月は、運動会があります。学校の大きな行事です。月末には、3年生の修学旅行があります。これも学年の大きな行事です。どちらも当日の成果や思い出は大切です。しかし、それ以上に、当日までその行事に臨む準備や姿勢が大切です。1日1日の日常を大切に、仲間を思いやり、気遣いながら、二度とない中学校生活を充実したものにしてほしいと期待しています。

このように、コロナ禍で経験したことは、生徒はもちろん教職員にとってもこれからの教育活動に生かすべき事柄はたくさんあります。「ピンチを生かして、チャンスに変える。」これからがその時だと思っています。蓮沼中学校の教育の質をさらに高めていきたいと思っています。

(校長 ・張替 健二)



生徒総会の様子 (5月11日)



## 異動なさった先生方から、生徒の皆さんへ

### 大山 聡 前校長先生

蓮沼中学校の生徒一人一人の皆さんのおかげで、楽しい2年間を過ごすことができました。授業をはじめ、行事や部活動に一生懸命に取り組んでいる姿には、いつも感動していました。そんな皆さんと朝のあいさつができなくなって、とても寂しい気持ちでいます。

今、私は教育委員会で小中学生のために力を尽くして頑張っています。忙しい毎日を送っていますが、蓮沼中の生徒の皆さんが、元気に楽しい中学校生活を送っているかな、といつも考えています。

保護者、地域の皆さま、大変にお世話になり、ありがとうございました。これからも蓮沼中学校を支えていただければと思っています。蓮沼中学校のますますの発展を願っています。

### 北村 周也先生（数学） 蓮沼中学校に寄せて

こんにちは。お元気ですか。4月からの生活はどうでしょうか。私は毎日、少し遠くにスカイツリーを眺めながら、新しい学校に行っています。皆さんも新しい出会い（人や知識との）を楽しみながら、大切な一日一日を過ごしていきましょう。みんなの幸せを祈っています。

### 上見 美和子先生（音楽）

蓮沼中学校では七ヶ月間という短い間でした。でも、皆さんと共に過ごした日々はとても充実していて思い出深いものになりました。合唱コンクール、音楽の授業、移動教室などいろいろな場面が昨日のことにように思い出されます。皆さんの笑顔と歌声は私の元気の源でした。ありがとうございました。

運動会  
全校練習

5月10日（水）①

スローガン発表

